

2009（平成 21）年度 東京大学 入試問題 第 4 問（文系） 解答例

- 一 戦前の農家の活気と人間関係の様子の一部が、土間から奥座敷へと順に高くなる家屋の造りそのものに窺えるということ。
- 二 叔母は、家中の闇に祖霊が多く留まると信じ、怖さより、代々の人間的時間を受け継ぐ自分は守られていると感じるということ。
- 三 筆者の父親は、村を出て安らかな人間的時間を失い、時間に追われて焦る都会で、祖先と断絶した個人の生を終えたということ。
*随想なので、あえて「筆者」としたが、解答は「私」でよい。
- 四 戦後六十年以上経ち、物語や逸話を語る老人を継ぐ者もなく、都会育ちの筆者自身、農村の安らかな生の時間を忘れがちだから。
*随想なので、あえて「筆者」としたが、解答は「私」でよい。